



藤里森林生態系
保全センター
令和元年8月5日
No.89

谷藤所長の四方山話 ー令和最初の夏山ー

平年とほぼ同じ6月15日に梅雨入りしましたが、乾燥注意報の日が多い今年の白神山地も夏山最盛期となりました。『山の日』が迫ってきているものの、最近では白神山地周辺を訪れる方がめっきり減ってきているようなので、気軽に？白神山地を感じることができる“山”へのアクセスについてご紹介しましょう。当センターで林野巡視を行っているエリア内で登山者が多い“山”は主に3カ所。

1座目はニツ森。八峰町の国道101号からニツ森登山口までは、車を使って50分ほどで到着します。登山口へ向かう道路は見晴らしも良く、ぐんぐん高度を稼いでくれますが、道幅が狭くカーブの連続。景色にばかり目をやっていると危険なので、登山口から頂上へ登る以上に気を使います。

2座目は小岳。こちらは藤里町の観光施設である猿ヶ瀬園地から、粕毛林道の砂利道を延々1時間程車に揺られて登山口へ到着します。粕毛林道の途中には藤里駒ヶ岳への粕毛側からの登山口となる樺岱林道のほか、左右に支線が迷路のように入っていますし、オフロードかと思うような路面状況のところもありますので、走行にはご注意を。

3座目は藤里駒ヶ岳。先の粕毛側からもアクセスできますが、藤琴川沿いの舗装された道路を、途中に太良峡や岳岱自然観察教育林といった見所を横目にしながら、藤里町内から1時間ほどで登山口へ到着します。3座制覇を目指す方には、登山口までの移動では一番容易といえるでしょう。

県道西目屋ニツ井線も片側通行とはいえ2年ぶりに全線通行可能となり、秋田・青森両県の白神山地へのアクセスがしやすくなりましたので、この夏の予定にいかがでしょう。



ー林野巡視中、気づいた箇所から歩道や看板の修繕も行っていますー

白神山地世界遺産地域巡視員会議（秋田県側）を開催

白神山地への入山シーズンを迎えるにあたり、今年度第1回巡視員会議を6月4日（火）、八峰町文化交流センター・ファガスにおいて開催しました。会議には白神山地世界自然遺産に携わる地域連絡会議関係機関や各機関委嘱巡視員など35名が出席し、事業計画や巡視員の活動内容、入山マナー向上の協力依頼、合同パトロールの実施、ニホンジカ等の情報収集など、今年度の取組について確認をしました。



米代西部森林管理署 白角署長（左）より、新規巡視員の梅田さんに委嘱状授与。



添谷計画課長より閉会の挨拶

今後、夏から秋に向け見頃を迎える白神山地周辺には、多くの方々が訪れると思います。巡視中の巡視員の方と会われた際には、巡視員の啓発活動をご理解いただき、入山マナーを守り、豊かな自然を満喫し、楽しい思い出を持ち帰っていただければと思っております。そのためにも各関係機関、関係市町村、巡視員の皆様の御協力をいただき入山マナー普及啓発に努めていきます。（山内）

“白神ぶなの森探検” — 藤里幼稚園 森林教室 —

6月6日（木）と7日（金）の2日間、藤里幼稚園児13人を対象にした森林教室“白神ぶなの森探検”を行いました。6日は白神山地世界遺産センター藤里館にて事前学習を行い、展示物を見ながら白神山地に生息する動植物や岳岱のシンボル400年ブナについて学びました。



好奇心旺盛な園児達の真剣なまなざし



ミヤマカタバミをかじってみると・・・

7日は岳岱自然観察教育林で2班に分かれて、前日に遺産センターで学んだ事を生かしブナ林を探検しました。園児達は岳岱で観察できる9種類の動植物のヒントが記載されている『探検カード』を片手に、次々と見つけていきました。今回初めての講師役で楽しく分かりやすく説明できるか不安でしたが、園児達の素直で明るいリアクションに気付けばこっちまで楽しく案内する事ができました。特に葉に酸味があるミヤマカタバミは「トマトの味がする！」と園児達に大人気で、最終的にはミヤマカタバミ探索になったりならなかったり…

弱冠20歳の私でも、園児達の元気あふれるパワーに圧倒された一日になりました。今回の森林教室をきっかけに、少しでも自然に興味を持ってくれたら嬉しいです。(齊藤)



大きなシナノキの下で記念撮影。
はじける笑顔！

藤里中学校 職場訪問



白神を熱く語る谷藤所長と山内指導官



「朝はアカショウビンの声で目覚めます」

7月10日(水)、藤里中学校1年生の生徒さん4名と引率の先生1名が、総合的な学習の時間に、“なぜ白神山地は世界遺産に登録されていて、どんな魅力があるか調べる”ために、センターに職場訪問されました。生徒の皆さんは暑い中、センターまで歩いて来て下さり、「地球温暖化の影響」や、「白神山地内での藤里と青森の違い」、「センターの保全活動」など多くの質問をし、熱心に資料を確認し、メモを取っていました。なかでも印象的だったのは「白神山地の個人的に思う魅力はなんですか」という質問。白神山地は、1993年に世界自然遺産として登録された理由として、東アジア最大級の広さを誇る原生に近いブナの森が残っていることが大きく評価されましたが、「個人的」ですから、この

答えは当てはまりません。職場訪問対応職員全員の白神への愛が試され、私は藤里の水の綺麗さと、生活圏内で希少な動植物に会えるところと答えました。藤里町に暮らしていると、センターの窓のすぐそこにアオゲラがやってきたり、朝起きてベッドの上でアカショウビンの鳴き声が聞こえて来るなんてことも。生徒の皆さんにとっては当たり前の日常かもしれませんが、皆さんの町は、宝物だらけです。

調べた結果は、新聞にして校内で発表されるそうです。どんな記事になったか楽しみです。(小林)

第1回 森林講座を開講



藤里駒ヶ岳山頂より望む岩木山



田苗代湿原の上部に広がるブナ林



キンコウカが見頃を迎えた田苗代湿原

7月15日(月)に第1回森林講座『山女ガイドと歩く白神山地・藤里駒ヶ岳』を開催しました。このイベントは『森林ふれあい推進事業』の一環として、白神コミュニケーションズと共催で年4回開催しています。昨年度は悪天候が重なり開催する事ができませんでしたが、今年度最初の森林講座は天気に恵まれ最高の登山日和となりました。

今回は県内外から計15名の方が参加し、ガイドの方から疲れのない山の歩き方や、田苗代湿原に群生していたキンコウカ等の解説に耳を傾けていました。登山口から山頂まではゆっくりしたペースで登り約2時間で、ニッ森や小岳より少しハードな印象を受けましたが、登山初心者の私でも問題無く登る事ができました。山頂からは向白神岳や岩木山、弘前の町並みをも確認することが出来ました。次回の森林講座はどんなものになるのか、今から楽しみです。(齊藤)



キンコウカ



モミジカラマツ



ゴゼンチバナ



ウスヒラタケ（食用）



アカアシクワガタ♂



ヒメオオクワガタ♀

— 今回の森林講座で出会った動植物達 —

白神山地周辺地域の哺乳類調査 中間報告

4月からセンサーカメラによる中・大型哺乳類調査と、同時並行で5月末まで小型囲いわなによるニホンジカ(以下、シカ)の試行的捕獲事業を行ってきましたが、今のところ当センターの調査でシカは確認されず、捕獲にも至っていません。

5月27日(月)には、白神山地世界遺産地域科学委員会と森林総合研究所東北支所の有識者の皆様と、環境省西目屋自然保護官事務所・東北森林管理局・津軽白神森林生態系保全センターの職員総勢15名で、ニッ森と八峰町小入川地区においてシカの痕跡調査を実施しました。昨年11月に世界遺産地域の秋田県側で初めてシカが撮影されたニッ森と、当センターでわなを設置している小入川。どちらもシカかカモシカと思われる食痕が見つかりましたが、森林総研の食痕DNA識別結果ではニッ森は不明、小入川はカモシカのものと判定されました。委員の先生によれば、「食痕自体が少なく、世界遺産地域周辺のシカの生息密度は相当低い」との事。低密度のシカを捕獲するには、痕跡調査で越冬場所を見つけてそこに狙いを定めるのが良い、との意見をいただきました。



昨年11月にシカが撮影された、ニッ森登山道下の粕毛川源頭部。



残雪の上でシカの糞を探しましたが、ノウサギの糞しか見つかりませんでした。



田苗代湿原の木道を歩く親子熊
23°C ● 2019.07.11 16:00:15



第二湿原のミズバショウの食痕

白神山地の哺乳類調査となると、どうしてもシカが注目されがちですが、ツキノワグマもまた世間の関心の的でしょう。お気づきの方もいらっしゃるでしょうが、田苗代湿原の第二湿原から第三湿原に向かう林の中に、木道に向けて当センターのセンサーカメラを1台設置しています。今年は昨年よりもクマが写る頻度が高いような…気がします。5月30日～7月17日の期間中、すでに計8回撮影され(去年は6月14日～11月7日に計10回)、7月11日には親子の姿が写っています。特に16時以降の夕方に多く撮影される傾向が見られます。データを回収した7月17日には、湿原のミズバショウの実が食べられた新しい痕跡が見つかりました。『山の日』は白神山地に入り浸ろう！と入山される際は、熊鈴を携行するなどして、遠くから人の存在を知らせるようにしましょう。(有本)

一巡視中に見つけた動植物達一



ツガルオニアザミに訪花したトラマルハナバチ (2019.7.3 藤里町 大滝林道)



エゾアジサイの花で交尾するヨツスジハナカミキリ (2019.7.17 藤里町 一通沢林道)

トラマルハナバチを含む真ん丸モフモフなマルハナバチの仲間は、捕まえない限りまず刺されることのない大人しい性格のハチです。ハチに擬態したヨツスジハナカミキリも、もちろん刺すことはありません。どちらも森林生態系における重要な花粉媒介者です。(有本)



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3

TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

